

すぎなみ151便り

おこまりさん

2011年

わたしは こまって おこまりさん
あなたも こまって おこまりさん
おこまりさん は おたがいさん
わかりあえれば ありがとさん

1・2月
普通合併号



Sakamoto
Mitsuaki

目 次

1. 【12月・1月の主な出来事】
2. 【12月・1月の主な出来事より】
3. 【12月・1月のメンバー・ミーティング】
4. 【昼食作り】
5. 【さんぽみち】～河田隆利エッセイ～
6. 【ヨッチン文学】
7. 【ヨッチン川柳】
8. 【今月の「駄洒落クイズ」】
9. 【ミツエの気持ち】
10. 【特別寄稿】

広告

11. 【我ら西永福妄想族】～151文芸部作品～
12. 【銀坊の窓】
13. 【至高～Dr.の遺伝子～】
14. 【「すぎなみ151」スタイル】
15. 【3月の予定】

1. 【12 月・1 月の主な出来事】

2010 年

12 月 9 日（木）屋外活動「寄席鑑賞」@新宿末広亭

12 月 11 日（土）花笠祭り「えび丸くん」@大宮八幡宮

12 月 15 日（水）ソフト・バレーボール合同練習 @中部センター体育館

12 月 25 日（土）合同望年会 @オブリガード

2011 年

1 月 13 日（木）屋外活動「映画」@渋谷 Bunkamura

1 月 17 日（月）ソフト・バレーボール合同練習 @大蔵第二体育館

1 月 19 日（水）ソフト・バレーボール合同練習 @中部センター体育館

2. 【12 月・1 月の主な出来事より】

12 月の行事 幹事：河田 隆利

真冬の一席 ～新宿・末広亭での寄席観賞～

木枯らし舞う年末の賑わう街を、竹細工の光の綾取りをかわす様に、新宿 3 丁目から伊勢丹を通り抜け、我々一向は新宿の寄席へと向かった。

記念写真を撮って貰い、弁当とお茶を受け取り中に入っていくと、前座の三遊亭歌の助が「転失気」をやっていた。如何にも前座らしく、出来はいけない。だから二つ目なのだろうが、楽屋の師匠連中にお叱りを受ける事は間違いないだろうと思ってしまった。落語ファンはこう云う嘯を憶えているものだから尚更だ。昨日観たつまらない映画をまた観るようなものだからである。

落語は、特に二つ目クラスの前座の噺家は、この「転失気」や「寿限無」あたりの入門噺を先ず教えられる。この噺の中の登場人物とのやりとり「転失気の場合は和尚さんと修行に来た小僧とのやりとり」の中に抑揚やリズムや、談志の云うイリュージョンがなければ面白く無い。それでみんな知ってる噺で修練する。だから余計に苦しい。

「転失気」の噺はこうである。

知ったかぶりで負けず嫌いの住職がある日、下腹が張って医者を呼んだ。医者に「てんしきはありますか？」と聞かれ、わからないとは言えないのでしかたなく「はい」と答えてしまった。悔しいので小僧の善長（噺家によっては時々珍念になる）に「花屋の爺さんに云って、てんしきを借りてこい。もしなかったら隠居のところに行け」と、言いつける。花屋も何だかわからないが、これも同じように負けず嫌いなので、「惜しいことをした。この間二つ三つあったが、もう温かくなってあんまり使わないから、親類に貸してしまった」と云う。隠居の家に行くと、これも知らない。「いらぬものだから台所の隅に放っておいたが、鼠が棚から落ちて掃きために捨ててしまったよ」との返事。しかたなく帰って和尚に報告したが、善長も気になって「和尚さん、その『てんしき』って何ですか？見たことはありませんが」と和尚に聞いたが、和尚は返答に困り、「ばか野郎。そんなことを知らないでどうする。わしが教えてやるのはわけはないが、おまえは遊びにばかり気がいって、すぐ忘れてしまう。先生のところ薬を取りに行き、自分の腹から出たようにちょっと聞いてこい」と、送り出す。

医者が言うには、「『てんしき』というのは傷寒論の中にある。転び失う気と書いて転失気だ。オナラのことだよ。」「オナラってのは何です？

オナラってのはどういう形で？」と善長。「つまり屁のこったな。」という医者に善長「屁ってえと、あのプープー、へえ、あれのことですか。」

これで、和尚も花屋も隠居も、知らないでゴマかしたことがばれたのだが、善長は和尚に言っても逆に説教を食うと思うから、嘘をつくことにした。「どうした、聞いてきたか？」と和尚。「へえ、てんしきとは盃のことだそうで」と答える善長に和尚は「盃？うーん、そうだとも。忘れるなよ。テンは呑む、シュは酒で、キは器。これで『呑酒器』と、知ったかぶりをし、照れ隠しにこじつけているところに医者が来てしまった。

和尚、よせばいいのに見栄を張り「お尋ねのてんしきを、今日はいろいろ用意しておりますので、お目にかけます。まずは大きいてんしきを」とまきえの箱から秘蔵の盃を取り出して「私はテンシキ道楽で。こっちは九谷くたに焼のてんしきで」と和尚。医者はうなずき「ははあ、医者の方では傷寒論しょうかんろんの中の言葉から、屁のことを申しますが、あなたの方では盃のことをいいますか」「さよう」と和尚。すかさず医者が突っ込む「どういうわけで？」
苦しまぎれに和尚「盃を重ねますと、しまいにはプープーが出ます。」

と、ざっとこんなはなし噺である。

これは有名な前座ぜんざ噺で、「寿限無」等と共に落語の代表作の一つで、噺の筋をご存知の方も多いと思う。「時そば」や「長屋の花見」もその範疇はんちゆうに入っているのかも知れない。

こう云った典型的な前座ぜんざ噺は戦後では大立者の三代目三遊亭金馬おおだてものが、しばしば演じたらしいが、金馬のやり方は、隠居いんきよを出さずその代わり花屋を夫婦にして、掛け合いのギャグで笑わせたと云う。その門弟もんていの二代目桂小南、孫弟子の故桂文朝なども好んで手掛けたと云うから、同じ噺でも意図的に噺のクライマックスはなしをはなし変化させる事により、噺家独自の持ちネタとしていったのだろう。

だから、同じ「野ざらし」「首提灯」「八五郎出世」「芝浜」にしても、あれはやっぱり志ん生（古今亭）のが良いとか、あれは圓生（三遊亭）だとか、やっぱり談志（立川）に限る、っと、こうなってしまう。



五代目 古今亭志ん生



六代目 三遊亭圓生



八代目 桂文楽



五代目 立川談志



五代目 古今亭志ん生

そう云った意味では「時そば」もそうだろう。「時そば」は扇子や手ぬぐいなど、小道具を多いに使い、その上に夜鳴きそばの「当り矢」と「外れ矢」との違いを大いに客席に伝わせられないと噺が面白くなってくる。それと、そばを食べる仕草や細かなシチュエーションを芸で見せなくてはならない。兎に角一人会話なのだ。「饅頭こわい」もそうだが、皆が知ってる噺はどこが笑い所か知

っているから、殆どはクスクス笑いになってしまう。だから枕噺でドカーンと笑いをとってその勢いで噺を組み立てねばならない。この壁を乗り越え人情噺の「芝濱」や「文七元結～もっとい～」あたりをやるようになると(自分のものとする云う意味)、もう真打ちに近いであろう。そう云った意味では時蔵の「時そば」は真打ちとは言え、何かが物足りない。それが立川談志の云うイリュージョンかも知れない。

さて今回の寄席で詰まらなかったのは、人情噺が一席もなかった事だ。トリの柳家小ゑんが将来、小三治から小さんに移るべくして約束されたような名跡だから、この小ゑんに期待したのだが、終に滑稽噺の所謂「長屋もの」で終わってしまった。談志が小ゑん時代の颯爽として滑舌の良い流暢なりズミックな噺を聞いていただけに残念で仕方がなかった。

円生も亡くなった。関西の若手の枝雀も亡くなり、志ん朝もなくなり、頼みの小さんも談志も歳をとりすぎ、後は志ん朝の実兄の馬生と、関西では桂米朝がいる具合だ。三遊亭円歌も良いし、鈴々舎馬風も良いし、小さんの孫の花緑も良くなってきた。だが本当の噺家は昭和に消えてしまったと思うようになった。後は談志の人情噺をたっぷり聴きたくなった。例えそれが下げ噺であっても良いと思う今日この頃である。

さっき、下げ噺を出したが、落語には「人情噺」の他に「滑稽」「艶笑」「怪談」噺などがあるが、ここでは有名な人情噺「芝濱」のあらすじを話しておこう。

勝五郎は腕の良い魚屋だが、酒好きがたたってろくに仕事もしない。ある朝女房に叩き起こされてしぶしぶ芝の魚河岸に出かけたが、浜で四十二両の金が入った財布を拾い早速友達を呼んできて大騒ぎをする。翌朝また

女房に起こされ金を拾ったのは夢だと知らされ、了簡りょうけんを入れ替え好きな酒を断って働く。三年後の大晦日の晩、女房は汚い財布を勝五郎の前に置き夢ではなかった事を告げ詫げる。勝五郎はこうして表店を張れる様になったのは女房のお蔭と礼を言い、女房のお酌で三年ぶりに酒を注いで貰う。

これは圓朝師作で「芝濱」「革財布」「酔っ払い」の三題噺として言われていますが、私がこの噺を始めて聞いたのが、先代の桂三木助師なので、師匠も十八番おはこにしてたと云います。なにしろラジオで聴く噺はなしは時々周波数が乱れていたもので、子供だった私にはあまり面白くなく、やはり「与太郎」物や「粗忽そこつの釘」など粗忽こつもの物が面白かった。

最後にもう一度で良いから談志の独演会に行行って観たいものだ。そこで「芝濱」や「文七元結～もっとい～」などをたっぴりと聴きたいのだが、尤も談志が生き延びてくれればの話だが、一度自殺未遂やってるから心配だ。それと逆らえないのが老齡化だ。声も昔ほど通らなくなったし、兎に角「談志最後の落語論」で「落語は人間の業である」から「落語はイリュージョンである」と書いたその「イリュージョン」を聴かせて欲しいものである。

平成二十二年

十二月 上席出演者

当る(一日より十日間) 昼夜入替なし
(十二時より四時三十分まで) 昼の部
(五時より九時まで) 夜の部

柳家小糸	三遊亭小圓	柳亭小燕	柳家喬太郎	ベベ桜	林家鉄平	桂家お中入り	江戸家猫八	古今亭志ん	三遊亭白鳥	林家正八	林家喜多	金原亭世之	口ケツト	桂家扇生	三遊亭万窓	柳家紫文	(交互出演) 三遊亭歌太郎	(交互出演) 古今亭駒次
4:00		3:00			2:00				1:00									
柳亭市馬	アサダ	金原亭奇	林家時蔵	大瀬(ゆ)ため	初音家左才	お中入り	三遊亭金馬	入船亭扇丸	翁家勝	春風亭勢	三遊亭歌武	柳月三郎	三遊亭多歌	林家彦	ホムラン	(交互出演) 柳亭市	(交互出演) 柳亭市	
8:00			7:00				6:00											

尚、プログラム上のお中入り最初の林家鉄平が三遊亭時蔵に変更となり、鳴り物の漫才「ロケット団」はアコーディオン漫談の「志げる」に、また物真似の「江戸家猫八」はマジックの「マギー隆司」にそれぞれ変更となっています。

また、本文中に掲載した山藤章二氏作の五代目古今亭志ん生、六代目三遊亭圓生、八代目桂文楽、五代立川談志たちの似顔絵は amazon.com からの転載です。

おわり

~~~~~

1 月の行事 幹事：河田隆利・坂本光明

## エリックを探して

～ 渋谷 bunkamura ル・シネマでの 1 月の行事から ～



昔からこのケン・ローチ監督の作品は、ハリウッドの大予算で世界を圧倒する映画は作らない。

私が初めてこの人の映画を観たのは、もう 17 年ほどになるかな。たしかシドニーの 2 番館辺りで、場所が汚い英語を話すパデントンという地区で、そこは典型的なスラム街で、大麻をはじめ LSD や阿片などはどこにでも手に入っていた当時だ。今はシドニーでも有数の芸術の町で、またゲイの人たちがアパルトマンに移り住むようになって、一番住みやすくなり、各国のレストランが軒を連ねている。

1969 年の「ケス」1996 年の「カルラの歌」など封切りされたものは殆ど観た。当時、彼の監督作品の「大地と自由」が仲間内で評判だったので観に行ったのだが、ボクはすっかり気に入ってしまった。また当時は大金をはたいて製作する映画に俄かに疑問を抱いていたので尚更だった。

ケン・ローチの新作『エリックを探して』は、題材こそいつものローチ映画だが、作品の成り立ちがこれまでとまったく異なるようである。内容面でのくわしいレビューは、「映画芸術」誌に掲載されるそうだから、機会あればそちらをお読みいただければと思う。

何しろこれは、ローチ自身の企画ではない。発端はイングランドの名門フットボールクラブ、マンチェスター・ユナイテッドのスタープレイヤーだったフランス人エリック・カントナ（1992 年から 97 年まで、マンUに在籍）が、「自分とサポーターとの関係性を改めて検証した映画を製作してみたい」という希望を抱いたことにあった。そして、パリ 5 区のホワイ・ノット・プロダクションズに企画が持ち込まれ、ホワイ・ノットの担当者としては、「英国でフットボール物を作らせるなら、ケン・ローチあたりがおあつら誂え向きではないか」と考え、ローチのプロダクションに白羽の矢が立ったということらしい。

ロンドン市内でおこなわれた最初の面会は、ケン・ローチとその取り巻きが、カントナをあまりにもリスペクトしていたため、非常に硬い雰囲気だったという。英国人でフットボールファンの男なら、それは当然のリアクションだろう。それほどカントナには、カリスマ性があったのである。

ホワイ・ノット・プロダクションズといえば、アルノー・デプレシャンをはじめ、マテュー・アマリック、グザヴィエ・ボーヴォワ、クレール・ドゥニ、フィリップ・ガレル、クリストフ・オノレ、ノエミ・ルヴォフスキー、クロード・ランズマンなど、

「カイエ」派的な 作家の映画 を製作する代表的なプロダクションだが、コンテンツとローチを結びつけるというのは、ごく自然で妥当な判断だと評価できる。

ローチ本人にとっては、珍しく「注文仕事」をこなしたという感覚であろう。完成度が抜群に高いというわけではないが、新境地の息吹みみたいなものが感じられる、なんとも爽やかな後味を残す作品になっている。こんな掛け値なしのハッピーエンドが初めから約束された作品を撮るのも、たまには悪くないな、と私自身も思ったし、ローチ自身も感じたのではないだろうか。

おわり

---

### 3. 【12月・1月のメンバー・ミーティング】

12月7日(火)

1)「布巾等の洗い方の順番について」

〔確認〕

気になっている人より：

布巾の洗い方の順番が人によって違うので確認してください。

食器拭き用布巾

手拭き用タオル(台所)

手拭き用タオル(トイレ)

台布巾

ガスコンロ用タオル

一度ぬるま湯ですすいで軽く汚れを取った後、洗剤で洗い、その後3回すすいで洗剤をよく落としてから干してください。

2)「ガスコンロの洗い方とまな板の除菌について」

〔確認〕

気になっている人より：

ガスコンロの洗い方とまな板の除菌の仕方を確認してください。

(ガスコンロの洗い方)

ガスコンロからゴトクを外す

金たわしを使い、ジフでゴトクを洗う

ガスコンロ用タオルでゴトクの水気を拭き取る

ガスコンロの周りをタオルで拭く

(まな板の除菌)

雑巾掛けにかかっているアルコールスプレーをまな板の裏表に吹きかける

左側のガスコンロを囲むようにまな板を立てかける

### 3)「昼食後の後片付けについて」

〔お願い〕

気になっている人より：

昼食後の後片付けに積極的に参加してください。

昼食を食べなかった方もトイレや台所でタオルを利用しているので布巾洗いに参加して下さい。

### 4)「12月の行事について」

〔お知らせ〕

幹事より：

12月の行事は新宿末広亭の「寄席鑑賞」です。スケジュールは以下の通りです。

10:30 「すぎなみ151」集合

11:00 「すぎなみ151」出発

井の頭線明大前を經由して、新宿3丁目で下車します。

末広亭前にて集合写真を撮り、お弁当を受け取って入場します。

入場後は自由解散となりますので、各自楽しんでください。

### 5)「大宮八幡宮花笠祭りについて」

〔お知らせ〕

職員より：

12月11日は大宮八幡花笠祭りです。「すぎなみ151」は例年通り「えび丸くん」を販売します。

当日のスケジュールは以下の通りです。

8:30~9:30「すぎなみ151」にて仕込み

10:00 現地集合

11:00 花笠祭りスタート

14:00 片付け

14:30 撤収

15:00~「すぎなみ151」にて後片付け

## 6) 「落ち葉時期の公園清掃について」

〔お知らせ〕

職員より：

落ち葉の量もそろそろ落ち着いてきたので、水曜日の公園清掃は明日で終了します。

## 7) 「年末年始の休暇について」

〔連絡〕

職員より：

年末年始休暇は 12 月 29 日（水）～1 月 5 日（水）までです。

## 8) 「ロッカーの棚の上の整理について」

〔お願い〕

気になっている人より：

以前ロッカーの棚の上を整理したのに、また私物が増えてきたようです。整理しましょう。

## 9) 「パソコンの横のコーヒー台について」

〔お願い〕

気になっている人より：

コーヒーとお茶とポットの置き場ですので、個人のコーヒー・カップ等を置かないで下さい。

## 10) すぎなみ合同望年会の開催について

〔お知らせ〕

職員より：

今年もすぎなみ合同望年会が行われます。

日時：12 月 25 日（土曜日）

場所：オブリガード

開宴：12：00（閉宴は 15：00 の予定）

会費：500 円（1 人）

## 11) すぎなみ 1 5 1 の床のワックス掛けについて

〔お知らせ〕

職員より：

例年年末の大掃除の一環として床のワックス掛けを行います。ご協力宜しく願います。

日時：12 月 22 日（水曜日）

開所：9：30（通常通り）

その他の箇所の掃除は 12 月 15 日に行います。また、煙、喫煙テーブルは 12 月 14 日（火曜日）の食事後に行います。

## 12月14日(火)

### 1) 本日のミーティング後の掃除について

#### 〔提案〕

気になっている人より：

年末の大掃除を少しずつ進めたほうが良いと思いますがいかがでしょうか。

大掃除の対象箇所を確認したいと思います。

冷蔵庫の中身の清掃と中身の整理

レンジフード(レンジ2箇所)

喫煙テーブル(煙草のフィルター及び排気口)

窓

床の清掃とワックス掛け

喫煙テーブル上の換気扇

玄関の床

それと、台布巾や雑巾がそろそろ古くなってきていますので、これを気に更新したほうがよいと思います。

台布巾は新しく購入、雑巾はタオルを買って縫って作る。レンジ掃除用の雑巾は2枚作ることにしました。

### 2) 明日の中部バレーについて

#### 〔お知らせ〕

キャプテンより：

明日12月15日14:00~16:00、中部センターでソフト・バレーボールの合同練習がありますので奮って参加して下さい。すぎなみ151を13:00頃出発します。

### 3) エアコンの清掃について

#### 〔お知らせ〕

職員より：

明日12月15日10:00頃業者が来てエアコンの清掃を行います。

### 4) ワックス掛けについて

#### 〔協力依頼〕

職員より：

12月21日(火曜日)10:00頃から床のワックス掛けを行いますのでご協力宜しく願います。

## 5) 合同望年会について

〔お知らせ〕

職員より：

先週もお知らせしましたが、12月25日(土)に合同望年会がオブリガードで行われますので、奮ってご参加下さい。開宴頃から来ないと料理が無くなってしまいますので早目に来るとよいと思います。

尚、開場は11:30 開宴は12:00 「すぎなみ151」は例年通り豚の角煮を提供します。

## 6) トイレ用のサンダルについて

〔お願い〕

気になった方から：

トイレ用のサンダルは下駄箱に入れなくて下さい。また、トイレ用のサンダルは、トイレに行くときとトイレ掃除の時に限定して使い、近くに出かけるときなどには使わないようお願いいたします。また、玄関先に置いてありますので、使い終わったら常に揃えておくように心がけて下さい。

## 7) オブリガードのオープン・スペースのご案内

〔お知らせ〕

職員より：

オブリガードの平日のオープン・スペースは、現在16:00~19:00で実施されていますが、2011年1月4日から試験的に13:00~19:00で実施されることになったとの連絡がありましたのでご案内いたします。

## 8) 杉並精神保健福祉交流会のご案内

〔お知らせ〕

職員より：

杉並精神保健福祉交流会という有志の会を立ち上げました。この会は、当事者の皆様をはじめとし、杉並区の精神保健福祉にかかわる様々な方々や地域の方々が、それぞれの立場や職域を越えて交流を持ち、杉並区の精神保健福祉について考える機会が必要だという考えから発足した会です。

この会の第1回目が1月14日(金)17:30から「すぎなみ151」で予定されています。参加申込数によっては会場が変更になることもありますが、その場合は別途ご案内いたします。

是非、皆様もご参加下さい。

## 9) 1月の行事

〔提案〕

そろそろ、1月の行事を決めませんか。

今回は、候補だけを挙げて、以降のミーティングで決めてゆくことになりました。

## 12月21日(火)

### 1) 昼食作りの手順

〔気になっていること〕

気になっている人より：

昼食作りの手順や方法を確認したほうがいいんじゃないだろうか。例えばこんなことが気になっています。

メニューが決まったら、それに見合ったお皿や茶碗等を人数分出す。

先日から余っている材料を切り始めたりするのだが、それをするのは殆ど決まった人がやっているの、皆さんも無関心に煙草など喫って笑い話ししているが、皆さんも協力して下さい。

惣菜が出来上がったなら、手掴みではなくスプーンやトングを使って取分けして下さい。

箸並べは食べる尖ったところを手掴みに並べない。

惣菜やご飯の分配は、いきなり大盛にしないで平均的に配膳するよう心がけて下さい。

食後の後片付けはみんな楽な法を選んでいるが、偶にはレンジ洗いや布巾洗いに積極的に参加して下さい。

食後のトイレ清掃をする権利は、買い物をした人、床掃除した人、料理作りに参加した人、後片付け(レンジ洗い・俎板の除菌・布巾洗い・布巾干し)等をした人にあります。

お箸やスプーンを並べる前に台布巾でテーブルを拭く事。

### 2) トイレ清掃について

〔問題提起〕

気になっている人より：

トイレの掃除方法はマニュアルを作っているのですが、それでも掃除をする人によって掃除をする箇所が異なるようで、やり残しがあるようです。

トイレはトイレ・クィックルで便器等を拭く。その時一番中の見えない所も一緒に拭く。

使用済みのトイレ・クィックルは、使用済みビニール袋に入れて、新しいビニール袋をセットする。

あと、トイレの床に小便が飛び散っていることが良くあります。汚したら汚した人が掃除しておくのが基本だとおもうのですが、小便を的からはずす可能性のある人は、男性でも座って用を足す等の工夫が必要なのではないでしょうか。

### 3) 明日のワックス掛けについて

〔協力依頼〕

職員より：

明日、10:00 頃から、床のワックス掛けを行いますので是非ご協力下さい。尚、食事作りはありません。

#### 4) 来年 1 月の行事について

〔お知らせ〕

幹事より：

1 月 13 日（木）渋谷・文化村ル・シネマにて映画「エリックを探して」を観賞する事になりました。集合は「すぎなみ 1 5 1」に 10:30、出発 11:00、映画鑑賞は 13:45 に決定しました。詳しくはポスターを作って掲示しておきますので確認しておいて下さい。

#### 5) 年末・年始の閉所について

〔お知らせ〕

職員より：

「すぎなみ 1 5 1」の年内の開所は 12 月 28 日迄となります。

冬休みの期間は 12 月 29 日（水）～ 1 月 5 日（火）となります。

#### 6) 杉並精神保健福祉交流会について

〔お知らせ〕

職員より：

杉並精神保健福祉交流会という有志の会を立ち上げました。この会は、当事者の皆様をはじめとし、杉並区の精神保健福祉にかかわる様々な方々や地域の方々が、それぞれの立場や職域を越えて交流を持ち、杉並区の精神保健福祉について考える機会が必要だという考えから発足した会です。

その会の第 1 回目が 1 月 14 日（金）17:30～19:30「すぎなみ 1 5 1」で行われます。

是非ご参加下さい。

#### 7) 「おこまりさん」について

〔報告〕

職員より：

「おこまりさん」4 か月超特大合併号はどうか年内に出来上がります。

#### 12 月 28 日（火）

##### 1) 昼食作りの手順

〔お願い〕

気になっている人より：

下駄箱の左側の一番のボックスは、ブーツ等の長靴専用ですので、薄いスリッパや小さな靴は入れないで下さい。

## 2) 食事作りについて

### 〔問題提起〕

気になっている人より：

食事は皆でレシピ本を見ながら調理して、皆で楽しく食べる事で連帯感等が生まれるのではないかと思います。本日のようにレシピ本は出さないで、誰かの意見を聞いてインスタントラーメンをバラバラに作って食べる方法はどう思われますか？

### 〔意見〕

・みんなでそうしようと決めたのだから良いのではないか。

他のメンバーからの意見なし。

## 3) 食事作りに参加する人について

### 〔お願い〕

気になっている人より：

食事作りに参加する人で煙草を吸う人は、煙草を吸った後手を洗ってから参加して下さい。  
ネギやキャベツ等を取り分ける人は、手掴みではなくスプーンや tong を使って下さい。

## 4) トイレのタオルとシンク前のタオルについて

### 〔問題提起〕

気になっている人より：

トイレのタオルやシンクのタオルは使っても良いのですが、不特定多数の方が使うので衛生上問題があると思っていますので、皆さんなるべくマイ・ハンカチを使った方がよいと思います。

## 5) 報酬が発生する有償活動について

### 〔提案〕

気になっている人より：

報酬が発生する有償活動は大袈裟に言うと「すぎなみ151」を代表して行っているのですが、特に公園清掃等で勝手に休憩しないほうが良いと思いますが。また、調子が悪い時は職員に申し出て参加時間を調整したほうがよいでしょう。

また、トイレやビル前の清掃でも、ビニールを取ってくれとかと他の人に頼まないで、報酬を貰ってやる活動なのですから、自分でビニール等を取りに行くべきだと思います。

## 6) 昼食の予約の申込みをする人の昼食作りへの参加について

〔お願い〕

気になっている人より：

昼食作りの時間に間に合わず、昼食の予約を申しこんだ人は、昼食を作る工程に参加できないこともあると思います。そういう場合、せめて後片付けに参加協力していただかないと、昼食を作ってもらって食べるだけになってしまい、昼食作りに参加した人とのバランスが悪いと思います。ですから、昼食作りに参加できなくても、昼食後の後片付け（レンジ洗いや布巾洗い）是非積極的に参加して下さい。

## 6) 1月の行事について

〔お知らせ〕

幹事より：

1月の行事は、渋谷・文化村のル・シネマで上映されるケン・ローチ監督の「エリックを探して」を1月13日に観賞する事になりました。詳細はポスターに書いておきますので、奮ってご参加ください。

## 7) 杉並精神保健福祉交流会について

〔お知らせ〕

職員より：

杉並精神保健福祉交流会という有志の会を立ち上げました。この会は、当事者の皆様をはじめとし、杉並区の精神保健福祉にかかわる様々な方々や地域の方々が、それぞれの立場や職域を越えて交流を持ち、杉並区の精神保健福祉について考える機会が必要だという考えから発足した会です。

その会の第1回目が1月14日（金）17：30～19：30「すぎなみ151」で行われます。

参加ご希望の方はお申込み下さい。多くの方の参加をお待ちしております。

## 8) 「おこまりさん」の発行について

〔お知らせ〕

職員より：

年末ぎりぎりになってしまいましたが「おこまりさん」4か月大合併号が出来上がりましたので、お手すきの方はラベル貼り、スタンプ押し、封入など発送の手伝いをお願いします。

## 9) ソフト・バレーボールの練習について

〔お知らせ〕

キャプテンより：

ソフト・バレーボールの合同練習が1月19日(水)14:00~16:00 中部センターの体育館であります。皆さんご参加宜しく申し上げます。

## 10) 職員からの挨拶。

〔報告〕

職員の羽田さんより：

この度、一身上の都合で来年2月20日をもって退職する事になりました。約4年近く皆様には大変お世話になりました。

## 1月11日(火)

### 1) 本日の閉所時間について

〔お知らせ〕

職員より：

本日、杉並精神保健福祉交流会の準備会が「アゲイン」で行われることになり、スタッフが全員不在となるため、皆様には大変ご迷惑をお掛けしますが、いつもより30分早い17:00に閉所にさせていただきます。よろしく願いいたします。

### 2) 1月の行事

〔お知らせ〕

幹事より：

1月の行事は、1月13日に渋谷・文化村 ル・シネマで「エリックを探して」という映画を観に行くことになりました。

「すぎなみ151」11:00集合、11:30出発、現地に着いたら一旦昼食を摂るために解散し、各自昼食を摂ります。昼食時間は12:00~13:40です。

13:40にル・シネマ インフォメーション前に再度集合していただき一緒に入館します。上映は13:55からです。

### 3) ソフト・バレーボールの練習について

〔お知らせ〕

キャプテンより：

1月17日(月)大蔵第二運動場で 15:00~17:00 迄行いますので、参加をお願いします。

「風の谷プロジェクト」よりお誘いがあった、宮坂区民センター体育室でのソフト・バレーボールの練習が2月16日にあります。14:00PM~16:00PM となっていますので参加をお願いします。

参加申込みポスターを貼っておきますので、参加希望者は名前を書いておいて下さい。

### 4) 杉並精神保健福祉会について

〔お知らせ〕

職員より：

杉並精神保健福祉交流会という有志の会を立ち上げました。この会は、当事者の皆様をはじめとし、杉並区の精神保健福祉にかかわる様々な方々や地域の方々が、それぞれの立場や職域を越えて交流を持ち、杉並区の精神保健福祉について考える機会が必要だという考えから発足した会です。

その会の第1回目が1月14日(金)17:30~19:30「すぎなみ151」で行われます。

参加ご希望の方はお申込み下さい。多くの方の参加をお待ちしております。

### 5) ビジネスマナーの講習会について

〔お知らせ〕

職員より：

「すぎなみ151」も加入している「とうきょう会議」という団体の中部ブロックの企画で、ビジネスマナーの講習会が2月21日に大田区の「樹林館」という事業所で行われます。

参加希望の方がいらっしゃいましたら職員までお知らせ下さい。

### 6) 先日の医療アンケートについて

〔確認〕

職員より：

全国精神障害者ネットワーク中部ブロックより、医療アンケートを先週お願いしましたが、是非困っている事や、こうして欲しい等、何でも良いのでアンケートへのご協力をお願いします。

尚、アンケートを下さった中から抽選で500円のマックカードがもらえるそうです。

## 1 月 18 日 (火)

### 1) 2 月の行事について

#### 〔提案〕

気になっている人より：

そろそろ 2 月の行事を決めたいと思います。行きたい所や、やりたい事など提案して下さい。

今回挙がった候補：カラオケ、ボーリング、新宿御苑、調布鬼太郎神社、モネとジヴェルニーの画家たち展、目黒寄生虫博物館

他に希望がある方は、ホワイトボードに書いておいて下さい。

### 2) ソフト・バレーボールの練習について

#### 〔報告〕

キャプテンより：

「風の谷プロジェクト」からのお誘いによるソフト・バレーボールの練習が 2 月 16 日にあります。時間は 14：00～16：00 です。是非参加をお願いします。

### 3) トイレ清掃について

#### 〔お願い〕

気になっている人より：

上下のトイレとも洗面台はジフで洗って下さい。また、石鹸置きが壊れた(吸盤が利かなくなりました)ので交換をお願いします。

### 4) 職員とのコミュニケーションについて

#### 〔問題提起〕

気になっている人より：

最近、職員の仕事量が多いの知りませんが、メンバーと職員のコミュニケーションする場が無くなっている気がします。出来れば職員じゃなくても出来る仕事はメンバーに振って下さい。

あと、最近の国の動向とか、都の動向とか、区の動向とかについて、ざっくばらんに一緒に話をしてくれるような機会があればよいと思うのですがどうでしょうか。あと、丹菊さんがどのようなことで悩んでいるとか、どんな考えを持っているとか、そういう話も聞けるような機会があったら良いと思うのですが。

#### 〔説明〕

職員より：

そういう不満があることは良く分かりましたし、職員と話をする機会が欲しいという気持ちは良く分かりました。

確かに、最近一時的に職員が外に出て色々なことに対応する必要が以前より多くあり、不在に

なることがあったと思いますが、職員全員がそういう状況であるという事はありません。具体的には丹菊が不在になることが多かったことは事実ですが、他の職員は「すぎなみ151」に居て、皆さんと一緒に活動をするようになっていたと思います。職員の中では役割を分担し、外に出て対応しなければいけないようなことは丹菊が集中して担当していましたので、中のことは他の職員が対応していたつもりです。

皆さんが「すぎなみ151」で活動する上で、ご自身でやっていただくべきことは大方既にやっていますので、他に何かやっていただくべきことがありましたらお願いすることになると思います。

国の動向等について話をして欲しいということですが、私たちも残念ながら全てを正確に把握しきれているとはいえないので、お話しすることが必要であればある程度の準備は必要だと思います。ただ、そうではなくて、丹菊の悩んでいることとか考えていることとかについてメンバー・ミーティングのような場ではなくて、何か他に機会が欲しいということであれば、例えば茶話会みたいな日程を組んでくだされば、そうした話もするきっかけができるかもしれません。

## 5) 部外者が来た時の対応について

〔問題提起〕

気になっている人より：

「すぎなみ151」を辞めた人がしょっちゅう来ているが、あまり面白くなく、対応に困っている。

〔説明〕

職員より：

「すぎなみ151」は、メンバーでない人でも「すぎなみ151」を必要としている人が気軽に来ることができるような、そんな場所でありたいと考えています。「すぎなみ151」を辞めた人であれば、皆さんも良く知っている人なので、来るたびに皆さんに紹介する必要もないように思います。辞めた人が立ち寄られることがどのように「面白くな」いのか、どのように「対応に困って」いるのか、もう少し教えていただければと思います。

この事業は税金で運営されていますので、ある意味公共の場だと位置付けることができます。もちろん事業の目的は限られています。その中で、どこにもつながっていない人が「すぎなみ151」の事を知って、どんな場所なのか見学に来ることもあり、そういう方については、必ず来られたときに皆さんにご紹介するようにしていますから、全く知らない人が勝手に「すぎなみ151」に来て座っているということはありません。

皆さんが「すぎなみ151」を必要としたように、他にも「すぎなみ151」を必要とする可能性のある人はいるという事で、そういう方々がつながるきっかけを排除することはどうかと考えています。

因みに、メンバー以外の方が来られた場合は、「非登録型利用者」用の「来所表」を作っており、その来所表にお名前と来所・退所時間を書いてもらうことになっています。

あまり周知ができていなかったことは申し訳ないのですが、そのようにしていますので、以後

メンバー以外の方が来られたら、その「非登録型利用者」用の「来所表」に記載してもらおうようにお願いして下さい。

もし、メンバー以外の方が来られていて何か問題があるようであれば、都度職員に声をかけてください。

## 6) 昼食作りに参加しない人について

〔問題提起とお願い〕

気になっている人より：

昼食作りをしないで見ているだけの人がいます。また、野菜を切ってこれで私の仕事は終わりだという人がいます。それから、後片付けをもっとスムーズにやりたいと思っているので、布巾洗い等積極的に参加して下さいをお願いします。

## 1 月 25 日 (火)

### 1) 2 月の行事について

〔連絡〕

メンバーより：

2 月の行事がカラオケに決まりました。

幹事：安藤

日時：2 月 23 日

集合：「すぎなみ 1 5 1」に 11：00、出発：11：30

場所：吉祥寺 歌の広場

現地に到着したら、一旦解散し昼食を摂って下さい。

12：50 頃に再度現地に再集合して下さい。

開催：13：00 より

### 2) 羽田さんの送別会について

〔お知らせ〕

幹事より：

職員の羽田さんが退職することになり、送別会を企画しようと思います。

日時は 2 月 16 日 15：00～17：00 迄です。

参加申し込み用のポスターを貼っておきますので、参加希望者は名前を書いておいて下さい。

尚、場所を変えて二次会も予定しております。

### 3) トイレ用のサンダルについて

〔お願い〕

気になっている人より：

トイレ用のサンダルが乱雑に脱ぎ捨てられていることをしばしば見かけます。サンダルを置いてあるのは玄関なので、お客様が見えたときに恥ずかしい思いをします。サンダルを使った人は、次の人が使いやすいように揃えて置いて下さい。

### 4) 靴ベラについて

〔お願い〕

気になっている人より：

靴ベラをいつもドアノブに掛けている人がいますが、専用の靴ベラ掛けがありますので、使った方はいつも同じ場所に戻しておいて下さい。

### 5) トイレの掃除について

〔お願い〕

気になっている人より：

2 階のトイレの内の洗面所も掃除するようにお願いします。男性で小便を床に飛ばしてしまう人がいるようです。汚したら汚した人が掃除するようにして下さい。便器内に小便をするのが難しい方は座ってする等の工夫を考えて下さい。

また、1 階のトイレですが、トイレ清掃をした後でも清掃が行き届いておらず、汚いことがあります。トイレ掃除をされる方は綺麗に掃除をして下さい。

### 6) 下駄箱について

〔お願い〕

気になっている人より：

前日も云いましたが、下駄箱の左側の一番下のブロックは長靴やブーツを置けるようになっています。ここに丈の底の靴やスリッパを入れると、ブーツを履いて来た人が入れる場所が無くなって困りますので、よろしくお願いします。

### 7) 有償活動について

〔お願い〕

気になっている人より：

トイレ清掃やビル清掃をされる方は自分が希望して清掃をやるわけですし、有償活動として報酬をもらって実施するわけですから、他の人にゴミ袋を持ってこさせたりせず、有償活動の範囲でやるべきことは自分で全てやるようにして下さい。

## 8) 昼食作りについて

〔お願い〕

気になっている人より：

昼食作りは、食材を買出しに行っている間でもやるべき準備はありますので、参加する人は是非協力下さい。

## 9) ソフト・バレーボールの練習について

〔お知らせ〕

職員より：

中部センターでの定例ソフト・バレーボール合同練習は14：00～16：00となっていて、昼食作りをするかどうかは、その日来ている人の中で決めていただければと思います。

また、基本的には職員が1名残り、「すぎなみ151」にいられるようにしていますが、そのときの業務によって外出が必要になる場合等によっては閉所する事があります。

## 10) 屋外活動の感想文について

〔お願い〕

会報編集者より：

皆さん、屋外活動の後、まだ記憶が残っているうちに感想文を書いて寄稿いただけると助かります。ご協力よろしく願いいたします。

以上

## 4.【昼食作り】

「すぎなみ151」で普段参加希望者が1人300円出し合って一緒に作り食べている昼食の記録です。

| 年月日         | 昼食<br>参加人数 | 主食               | 主菜           | 副菜                      | 汁物               | その他 |
|-------------|------------|------------------|--------------|-------------------------|------------------|-----|
| 2010年12月1日  | 9          | ご飯               | 秋刀魚のひらき      | ほうれん草のお浸し               | 浅利の味噌汁           |     |
| 2010年12月2日  | 9          | 和風茸のスパゲッティ       |              |                         | 蛸のチャウダー          |     |
| 2010年12月3日  | 12         | ご飯               | 肉じゃが         |                         | 浅利の味噌汁           |     |
| 2010年12月6日  | 13         | ご飯               | 鶏のおろし煮       | 南瓜のサラダ                  | ほうれん草ともやしの味噌汁    |     |
| 2010年12月7日  | 14         | ご飯               | クリームシチュー     | ほうれん草と竹輪のペペロンチーノ        |                  |     |
| 2010年12月8日  | 12         | ご飯               | 酢豚           | じゃが芋のザーサイ和え             | 茸汁               |     |
| 2010年12月9日  | 0          | 食事作りなし           | 屋外活動         |                         |                  |     |
| 2010年12月10日 | 18         | ご飯               | 鯖の味噌煮        | サツマ芋の甘辛炒めオレンジジュース煮(大学芋) | なめことえのき茸の中華スープ   |     |
| 2010年12月13日 | 11         | ご飯               | 親子煮          | 白菜キムチ                   | オクラと長ネギと玉葱の中華スープ |     |
| 2010年12月14日 | 15         | ご飯               | 目玉焼きのセハンバーグ  | 海老とセロリの炒めもの             | ネギとナメコの味噌汁       |     |
| 2010年12月15日 | 0          | 食事作りなし           | ソフト・バレーボール練習 |                         |                  |     |
| 2010年12月16日 | 12         | ロールパン            | ビーフシチュー      | セロリとツナの炒めもの             |                  |     |
| 2010年12月17日 | 14         | 茄子のトマトソース・スパゲッティ |              | チジミ風卵焼き                 | オニオンスープ          |     |
| 2010年12月20日 | 16         | ご飯               | クリームシチュー     | 蓮根と糸蒟蒻の味噌キンピラ           | 蛸の味噌汁            |     |
| 2010年12月21日 | 14         | ご飯               | ビビンバ         | サツマ芋の甘煮                 | 若布の中華スープ         |     |
| 2010年12月22日 | 0          | 食事作りなし           | 参加人数不足       |                         |                  |     |
| 2010年12月24日 | 16         | ご飯               | コロッケ         |                         | 具だくさんスープ         |     |
| 2010年12月27日 | 13         | ご飯               | カレー          |                         | 具だくさんスープ         |     |
| 2010年12月28日 | 8          | 叉焼麺              |              | ほうれん草のお浸し               |                  |     |
| 2011年1月6日   | 0          | 食事作りなし           | 参加人数不足       |                         |                  |     |
| 2011年1月7日   | 16         | ご飯               | 大根と豚バラ肉の炒め煮  | ひじきの煮物                  | 豆腐とナメコの味噌汁       |     |
| 2011年1月11日  | 12         | ご飯               | 鍋しぎ          | ポテトサラダ                  | 浅利の味噌汁           |     |
| 2011年1月12日  | 0          | 食事作りなし           | 参加人数不足       |                         |                  |     |
| 2011年1月13日  | 0          | 食事作りなし           | 屋外活動         |                         |                  |     |
| 2011年1月14日  | 0          | 食事作りなし           | 参加人数不足       |                         |                  |     |
| 2011年1月17日  | 14         | ご飯               | クリームシチュー     | ふるふき大根                  |                  |     |
| 2011年1月18日  | 9          | ご飯               | カレーライス       | ほうれん草のお浸し               |                  |     |
| 2011年1月19日  | 0          | 食事作りなし           | 参加人数不足       |                         |                  |     |
| 2011年1月20日  | 0          | 食事作りなし           | 参加人数不足       |                         |                  |     |
| 2011年1月21日  | 13         | ご飯               | 麻婆豆腐         | 春雨サラダ                   | なめことエノキの中華スープ    |     |
| 2011年1月24日  | 9          | スパゲッティミートソース     |              | 白菜サラダ                   | オニオンスープ          |     |
| 2011年1月25日  | 13         | ご飯               | 秋刀魚の塩焼き      | 青菜の白和え                  | 大根と油揚げと若布の味噌汁    |     |
| 2011年1月26日  | 0          | 食事作りなし           | 参加人数不足       |                         |                  |     |
| 2011年1月27日  | 14         | ご飯               | ホイコーロー       | 小松菜の煮浸し                 | 大根と若布の味噌汁        |     |
| 2011年1月28日  | 10         | パン               | クリームシチュー     | 人参と大根のベトナム風サラダ          |                  |     |
| 2011年1月31日  | 0          | 食事作りなし           | 参加人数不足       |                         |                  |     |

## 5. 【さんぽみち】～河田隆利エッセイ～



### 「モネとジヴェルニーの画家たち」展から見る アメリカ印象派画家たちのジヴェルニーへの憧れ

昔、ベルギーはフランダース地方のレーニエ川の辺には、エミール・クラウスをはじめとする芸術家たちのコロニーがあった。それとは別にパリ郊外のフォンテンブローの森のはずれにジャン・フランソワズ・ミレーを中心とした所謂バルビゾン派と呼ばれたコロニーもあった。

これから綴るジヴェルニーは1883年以降にクロード・モネが移り住みセーヌ川の中州に家を建て、当時パリの芸術家に影響を与えた日本の浮世絵やジャポニズムと云う様式美に魅かれて睡蓮の花と柳の木と自慢の太鼓橋を作り、有名な連作「睡蓮」を描きだしたのだ。

それ以前に「印象～日の出～」でパリの画壇を騒然とさせた事から、印象派 (Impressionism) と呼ばれだしたモネは、パリでシスレー、ルノアールやピサロと云う連中との交友の中で、印象派と云うグループを設立したのもその要因の一つである。



マルモッタム美術館に展示されている「印象：日の出」

印象派の巨匠クロード・モネが晩年に移り住みアトリエを構えたジヴェルニーは、パリから西に約 80 キロほどのセーヌ川の右岸にある風光明媚な小さな村。そのセーヌの流れの支流であるエプト川と通ずるリュ川から水を引いてモネのお気に入りの日本風の瓢箪ひょうたんの形の池を作った。

そこには浮世絵に出てくる柳の木を移植し、また池のくびれた所にジャポニズムを象徴とする太鼓橋を造り、その上には藤の花をあしらい、池には睡蓮の花を植えて憧れの日本風の庭園を造った。



モネ作 「睡蓮」

このジヴェルニーの村は、画趣をそそる場所で、噂を聞きつけて 1880 年代半ばにやってきたアメリカ人画家たちの滞在をきっかけに、芸術家のコロニーが形成されていったのだった。

アメリカの画学生だけではなく、オーストラリア、オーストリー、カナダ、フィンランド、ポーランド、ノルウェイ、アイルランド、イギリス、スコットランドの芸術家たちがこぞって押し寄せ、その多くはボーディ・ホテルに滞在し、長期滞在者は村にアトリエを兼ねた家を購入したため、村はその後 30 年間は賑わいを見せ、ピーク時は通算 300 人以上の画家が長期滞在した程で、訪れる画家が増えるにつれ、この村は一方でステレオタイプな場所にもなっていったようだ。画家たちは描く対象を自然から人物や村の暮らしに移すなど、常に斬新なものを求め、独自の様式に到達していき、それはまたアメリカ印象派誕生の軌跡でもあったのだ。

この「モネとジヴェルニーの画家たち」展はモネの作品に加え、日本で殆ど紹介されることのなかったアメリカ人画家の油彩約75点で構成され、ジヴェルニーの自然と村の暮らしを描いたこれらの作品は、新鮮な感動を喚起すものであった。



セオドア・ウエンデル作 「花咲く野原、ジヴェルニー」

上の絵を描いたセオドア・ウエンデル(1859 - 1932)は、ミュンヘン、ニューヨーク、パリで学んだアカデミックな画家で、その修業は、1889年に制作した作品の線的な輪郭と構築性の高い構図となっているとボクは思っている。素人のくせにと思われるのも仕方がないが、この作品における明るい色ののびのびとした筆致は、同時期のモネによる印象主義の風景画を彷彿させている。たしかに、ウエンデルはジヴェルニーに来る前にモネの作品を観てたかも知れないが、この作品は巨匠を真似ようとしたものではなく、むしろ同様の主題をわざと選び、独自のスタイルを模索していたのではないかとボクは推論するのである。その証って程でもないが、ボクなりに実証すると、ここではいくつかの対象的な要素が下地になっており、赤や紫の花と緑の草が対比し、前景に横方向に広がる花畑に対し、中景には縦に伸びる樹木が配されている。こう云う点からもモネからの呪縛を取り払い、モネとは違う画風を追及していたのではないかと思うのである。



モネ作 「海辺のテラス サンタ・ドレス」

ボクが好きなモネの絵は沢山ある。「印象～日の出～」をはじめとして、「散歩 日傘をさす女」「サン・ドニ街 1878年6月30日の祭日」「ヴェトルイユの冬」「ラ・グルヌイエール 蛙の池」「ジヴェルニー付近のひなげしの野 1885年」や「カピュシーヌ大通り」に上の絵の「海辺のテラス サンタ・ドレス」が特に好きだ。

この「海辺のテラス サンタ・ドレス」は、誰が見ても印象派的絵画ではなく、むしろ写実的絵画のようにボクは思う。また、モネ自身が書いているように、この絵の下地は葛飾北斎の「五百羅漢寺、ざみどう」を意識したと後述している。この葛飾北斎の「五百羅漢寺、ざみどう」を調べてみたら、並はずれてコンパクトで水平線の層に積み上げられた「海辺のテラス サンタ・ドレス」の構図は葛飾北斎のそれと同じで、モネが当時魅せられていた日本の版画に影響されている事は確かだ。またこの作品は、色とりどりの花がいっぱいの庭、その咲き乱れる花の生气と光がモネを惹きつけ、多彩な色の華麗さを演出する光の効果を追及するモチーフとなっていて、とても美しい作品となるところが、この絵の醍醐味だとボクは思うのである。



セオドア・ロビンソン作 「婚礼の行列」

セオドア・ロビンソンの親友の画家セオドア・アール・バトラーと、モネの2人目の妻アリス・オシュデの連れ子だったシュザンヌ・オシュデとの婚礼の様子を描いたもので、ボクにとっては昔観た映画「ライアの娘」を彷彿させる傑作だと思っている。

右側に描かれている村役場に婚姻届を出した後、教会に向かうところだろうか、晴れの舞台を飾るように日の光の明るさを強調しているこの絵には荘厳さがあっても、結婚した喜びが個々の人物にはないが、隊列の中に儼かな幸せを覗き見る事ができる。

セオドア・ロビンソン(1852 - 1896)はジヴェルニーの暮らしの中の人たちをよく描いていて、風景とは違う村の人々の哀愁を描いた人で、ボクにとってこの展覧会で一番好きな絵であった。それは「フランダースの光」展のエミール・クラウスの発見と同じ感動を与えてくれたひとりであった。

このようにアメリカ人の芸術家の中には、日本の幕末に黒船でやってきたペリー提督の妹のリーラ・キャボット・ペリー等もいて、アメリカの画壇に大きな影響を与えた。また、松方コレクションで有名な松方幸次郎等もモネの知己を得て

いる。この展覧会はただ印象派の絵画を観られるだけではなく、如何にアメリカの画壇に浸透していったかを歴史的に追いながら確認する事が出来たセンセーショナルな画展であった。

おわり

## 6. 【ヨッチン文学】

愛は“カツ”！！

菅 (KAN)

by ヨッチン

心配ないからね 日本経済の  
デフレが止まる 明日がきっと来る  
どんなに貧困で おなかがすいても  
ゴキブリ ダニは 決して食べないで

せんごく  
仙谷 仙谷  
傷つけ 傷ついて 官房長官の切なさに  
やめて きづいても  
Oh もう一度 夢見よう  
自衛隊が必要と 知っているのなら

夜空にミサイルを みつけるたびに  
願いをたくし ぼくらはやってきた  
どんなに困難で くじけそうでも  
信じることさ 必ず最後に愛は勝つ

前原 前原  
約束 うらぎられ 責任とらされて  
ハツ場ダムは できていく  
Oh おそければ おそいほど  
普天間基地は 絶対うごかない

予算がないからね 築地市場が  
とどまる明日は 必ず最後にきっとある

どんなに困難で くじけそうでも  
信じることさ 必ず最後に愛は勝つ

福原愛は 必ず三食「愛はカツ」！！

---

## 7. 【ヨッチン川柳】

by ヨッチン

なおと  
直人でも  
だて  
立派な伊達と  
かん  
駄目な菅

## 8. 【今月の「駄洒落クイズ」】

言葉の魔術師『謎の男 Mr.Y』が出題する、今月の駄洒落クイズはこれだ！

美しくて間違っただ情報を流すともらえるものは？

答えは来月号に掲載されます。

9・10・11・12 月超特大合併号の出題と答：

出題：西武池袋線の駅の中で、エコロジーと強調する駅は？

答：江古田（えこだEco だ！）

## 9. 【ミツエの気持ち】

平成 23 年現在、友達に恵まれ幸せです。ここまで来るのが大変でした。小さい頃は母親が一人で七人の子供を育てて、兄弟姉妹が助け合い、アルバイトしたりして暮らしていました。

学生の頃は本も買えなかったので成績も悪く、勉強が出来ませんでした。16 歳で仕事をして、洋裁や和裁の習い事が出来ました。

21 歳で高校に入りました、そこで人生について考えキリスト教に入りました。とても考え方が変わりました。教会に住み込み、台所で働いて日曜日はカレーライスを作っていました。でも、1 年しか続けられません。難しくて伝道が出来ませんでした。

外に出て働いて、お金を貯めて暮らしましたが、また聖書を読み教会に行くようになりました。

聖書の中に「神は愛なり」と書いてありました。聞いてみたら「親子の愛」「兄妹の愛」「夫婦の愛」だと言われました。断食したり、水行したり、祈ったりと頑張ってみました。

そのうちに精神的について行けず病院に行きました。「幻聴」「鬱」と進み、やがて「幻覚」になり、兄弟・姉妹にも迷惑をかけました。それから薬漬けの生活です。

「すぎなみ 1 5 1」に来て良かったとつくづく思います。何故なら、一緒に食事を作ったり、冗談やお互いの生活について話しあったりで、一日一日和んで暮らして、もう 13 年になります。今は近所の人達とも食事に行ったりして気を紛らすこともあります。

手足が悪いのでリハビリに行っていますが、どうも時間がかかりそうです。困った時はスタッフに聞いて、事務的な事はお願いしています。パソコンも教えていただきました。

今度、スタッフの一人が退職される事になり、またいっそう淋しくなりそうです。いつまでも、元気にいて下さいね。

谷口 光枝

## 10. 【特別寄稿】

### つながり

羽田 知佳

ひとはみんなみんな優しい。

「すぎなみ 1 5 1」に憩うひとびとの実直さと温かみに触れたことで  
未来への展望とささえ合いながら生きる喜びを抱かずにはられない。

これまで出会ってきたひととのつながりを  
いつまでもいつまでも膨らませてゆきたい。

「すぎなみ 1 5 1」に憩うひとびとは慈愛に満ち溢れていた。

「すぎなみ 1 5 1」に憩うひとびとは痛みを分かち合っていた。

「すぎなみ 1 5 1」に憩うひとびとは歓びを分かち合っていた。

「すぎなみ 1 5 1」に憩うひとびとは笑顔に満ち溢れていた。

ひとはみんなみんな温かい。

「すぎなみ 1 5 1」に憩うひとびとと出会うつながりを持てたことで  
いのちの重みと日々を生きることの尊さを噛みしめずにはられない。

これまで出会ってきたひととのつながりを  
いつまでもいつまでも大切にしたい

広告 広告

# ヒューマン・クリエイション

しばらくお休みをしていました「クリエイション」を「ヒューマン・クリエイション」と名称を変更して再開しています。

「ヒューマン・クリエイション」は精神科ユーザー当事者の為の自助グループです。「すぎなみ151」のメンバーでなくても参加できます。

「すぎなみ151」の一部を使わせてもらい実施しています。

開催日：毎月第3木曜日

(変更することもありますので、必ず事前にお問合せ下さい。)

時 間： 14:00～16:00

場 所： すぎなみ151 和室

対象者： 精神科ユーザー

参加費： 無料

問い合わせ先：03-3325-9275(「すぎなみ151」内)

担当：森重

この自助グループは、当事者のみで運営している当事者のグループです。自分の気持ちや体験を参加者で分かち合います。

やっぱり同じ苦しみを経験した者同士でしか分かり合えないことってあるんですよね。「ああ、こういう苦しい体験をしたのは自分だけじゃないんだ」ってこの「ヒューマン・クリエイション」で分かった人が、その後気持ちが軽くなったんだそうです。

あなたも「ヒューマン・クリエイション」に参加してみませんか！

広告 広告

## 11. 【我ら西永福妄想族】～ 1 5 1 文芸部作品～

夜明け

森重寿一

深い夜 眠れぬ夜  
つらいんだ ねむりたい  
夜のしじまに身も心もゆだねて  
闇をつめたい時間が  
静かに流れていく

午前四時 コーヒーを飲んだ  
少しは気がまぎれるが  
孤独さと戦う  
闇が深ければ深いほど  
夜明けは近いんだ

やがて空がしらみかけて  
すがすがしい風が頬に  
東天の暁がさわやかだ  
いまを素直にさせる  
まだ少し眠い

もうすぐ街は動き出す

青く透き通る人生の夜明けだ

## 12. 【銀坊の窓】

### 《銀坊・考案・自作：箴言・格言》 ～ 病い体得しての想いから ～

日本 DMD クラブ

ピア・サポート隊 吉田銀一郎

#### 『<sup>シ</sup>至病根』

疾患とは、その家族に与えられた、神からの試練、そしてそれは真実の愛を識<sup>し</sup>る、家族との至福の為に！！

#### 『<sup>ビョーコンワカ</sup>病根和家』

疾患は一人の患者に、災いして居る様だが、それは家族全員が協力して、一患者の心身体の平安、平癒を願う為。そしてこれ迄以上に、家族一同に、より絆を深慮するが為に神が与えたる、患者と家族の和睦ともする。温情から為<sup>な</sup>る試練なのです。

#### 『<sup>ビョウ イ コクフク</sup>病為克服』

病いに為れば、始めは当事者や家族は困るものだ。

しかし、病いに為ったが故に、治そうと想う知恵が出て来るものさ。

病いは治そうとする事の、出来る人達だけに与えられた神の温情なる仕業なのです。

## 13. 【至高～慶応の遺伝子～】

### 極限の箔と人徳の世界の中で

内野コロール（仮名）

僕は、ホントの所、ディズニーで剣を持って記念にも貰ったり、都庁で優秀賞（建研）の授賞式をしたり（機械科で佳作も受賞）、自分が造った用語を巡って警視庁と審判をしてきた「3大施設経験者・用語発案者」であったり、学校の体育やクラスではリーダー的存在だったので、卒アルのスナップにも載ったりしてきました。

1人暮らしも8年目になるのですが、1人暮らしって、父親のように働き、母親のように家事をし、自分自身の面倒も見たりして、「1人3役」もこなさないといけないので、意外と大変だったりするんですね。

僕の夢は、「過去の箔と人徳」を生かして、生まれ変わったら MotoGP ライダー兼工業デザイナーや、スノーボーダーや、タレントや、モデルとかになって、CDやDVDや本などを出してみたりする事です。

僕自身は、容姿も崩れ、「この病」に罹っていなければ、道（人生）を堂々と歩んでいたと今でも思っています。

理想的な生き方って難しいですね。

## 14. 【「すぎなみ 1 5 1」スタイル】

### 再び「共同作業所」について考えてみる

先日、東京都で精神障害者の地域生活を支援する団体、事業所ならびに個人が参集して様々な活動をおこなっている「とうきょう会議」という団体（簡単に言えば、東京都内の精神保健福祉に関わっている個人や事業所が加盟している団体です。）が主催する検討会がありました。

今回は、「『共同作業所』って、結局なんだろう??」というテーマでシンポジウム形式の検討会がおこなわれました。

「共同作業所」という事業体系のままでいる事業所の枠で、私もシンポジストとして参加いたしました。

シンポジウムが進む中、他のシンポジスト5名の方々の話や、会場の参加者からの話などを聞き、「共同作業所」の経緯や考え方、そしてそれぞれの方が関わってきた活動に対する様々な思いを知ることができました。

このシンポジウムでは、「共同作業所」とは結局何だったかというまとめをすることはありませんでした。それほど「共同作業所」とは何かという設問に簡単に答を出せるほど単純な存在でないのが「共同作業所」というものだということを意味しているのだと思います。

シンポジウムを通して、色々な事を考えさせられました。

- ・日本の中で「共同作業所」を作る必要があった背景は何なのだろう？
- ・30年以上経った今でもなおその形式あるいはモデルが継続しているのは何故なのだろう？

恐らく 1960 年代後期あるいは 1970 年代から「共同作業所」の活動に携わった方々は歴史的生き証人として、容易にこれらの間に答えることができるのだらうと思います。あるいは、様々な文献をあたれば、その歴史的背景について知るこ

とができるだろうと思います。仮に 20 歳の頃「共同作業所」の創成期の活動に関わり始め、今でも「共同作業所」に関わっている人がいるとすると、そうした生き証人は今 50 歳台ということになります。でも、周りを見渡すと、意外とこういう方は少ないような気がします。生き証人が身近にいるうちに、色々な事を教えてもらわないといけないと思っています。

「共同作業所」の始まりから 30 年以上も後に「共同作業所」の活動に関わるようになった私のような者にとっては、目の前には既にどなたかが創ってくれた「共同作業所」があり、その事業を支える公的補助金制度等により運営がなされ、その「共同作業所」に集う人たちがいるのは、「あたりまえ」の状態と思っても仕方がないかもしれません。

それは、「共同作業所」の職員ばかりではなく、その「共同作業所」を利用する対象となる方々についても恐らく同じことがいえるのだろうと思います。すなわち、「共同作業所」が創られてきた頃に「共同作業所」を利用するようになった方と、現在「共同作業所」やそこから派生した事業所を利用することになった方とでは、やはりその人にとっての「共同作業所」観が違って当然だろうと思います。

また、「共同作業所」が創られてゆく中で、多様な活動の在り方が派生してきた結果が現在の「共同作業所」の要素に多分に加わっているだろうと思います。「共同作業所」をつくる運動が日本で興って以降、時代の流れの中で多種多様な「共同作業所」が設立されてきたということですが、「共同作業所」の設立の経緯や理念、設立の必要が生じた時代背景や社会的環境も「共同作業所」毎に異なるであろうと思います。

「すぎなみ 1 5 1」には「すぎなみ 1 5 1」特有の「共同作業所」観があり、それが自分達にとっての「共同作業所」観の基準になってしまうかもしれません。ということは、他の「共同作業所」は、その「共同作業所」観が基準となって「共同作業所」の在り方が語られることもあるということだと思っています。ですから、

一言に「共同作業所」といっても、「共同作業所」の在り方がそれぞれ違っていても不思議ではありません。

そうではあっても、「共同作業所」の活動の根底を流れる共通点というのがあるのではないだろうか、そしてその共通点に「共同作業所」の社会的な存在意義や役割の本質を見出すことができるのではないだろうかと考えてしまうわけです。もしかすると、現実にはそのようなものがあると思うのは幻想なのかもしれません。

「共同作業所」の活動が全国的に広がり、今日までその形態が継続しているのは、それなりの必要性を生み出す日本社会の環境があるに違いないと思います。それは、もしかするといい意味であるかもしれないし、悪い意味でもあるかもしれません。

そうした考えからも、「なぜ日本の社会において『共同作業所』はあるのか」という疑問は、「共同作業所」の活動に関わる上で常に考えさせられる本質的な問題であるような気がします。

「共同作業所」という活動が発生した背景として、労働能力（職務遂行能力）如何により一般雇用（雇用に種類がある社会的状況自体問題がありますが。）されることが困難な日本社会の環境があるのだらうと推測します。具体的には、職場の提供者（公共機関、企業等、賃金労働を提供する主体）が日本の経済原理の中で個別の配慮無く職務従事者に要求する生産効率の水準、職場の提供者が経営上の採算の中で人件費として支出できる費用の限界、そして職場の提供者（特に私企業について）が雇用する従業員とその家族の幸福を企業活動の第一目的とせず、企業役員やその所有者（株主）の利益が最優先される経営理念等が挙げられるのではないかと考えられるのです。

こうした背景の中で雇用される機会から排除された人の「働きたい」という人として当然の欲求と、「働く権利」の主張を実現する手段として「共同作業所」を

作り、それぞれの人の能力や可能性に合わせた労働が可能な機会と場を創ることであったという主旨の文章が、以前目にした資料に書かれていたと記憶しています。その活動が、マルクス・エンゲルスの思想を根拠にしていた形跡もあるようなのですが、そのことについては、それを語るに十分な知識を持ち合わせておりませんので、ここで話を深めることは避けておきたいと思います。また、時代時代、場所場所で様々な経緯で「共同作業所」が創られてきていますので、全ての「共同作業所」が必ずしもそうした「共同作業所」創成期の動機を元に「共同作業所」を作ってきたとは限らないと考えられるからです。そうではありますが、「働きたい」という人について、その人の労働能力（職務追行能力）如何により働く機会を得ることができないという社会的問題が日本に存在していることは実際にあるということは誰もが否定し得ないことでしょう。

しかし、逆に、「労働」だけが人が社会参加をする上での唯一の在り方であると規定してしまうことが、人が社会で存在する上で多くの問題を生じさせる原因になりはしないかと心配にもなってきます。もっとも、「労働」をどのように定義するかによって違ってくるとは思いますが。

恐らく、「共同作業所」をつくる運動は、上述の社会環境の中で止むを得ず試みられた一つ的手段ではあったと考えられますが、それは最終目的ではなく、本来的には、全ての人、その人の能力と可能性に合わせて働く機会を「共同作業所」という隔離された場所ではなく、社会の中で実現させてゆくことにあったのではないかと推測します。

それが本来の目標であったのであれば、条約締結後日本では未だに批准されていない「障害者の権利に関する条約」(Convention on the Rights of Persons with Disabilities [UN Doc.A/RES/61/106] 2006年12月13日採択 2008年5月3日発効)に由来する「合理的配慮」という言葉が最近頻繁に聞かれるようになりましたが、この「合理的配慮」を実現する社会が、そうした社会を実現させる一つの基本的な条件になるように思います。

ちなみに「合理的配慮」(reasonable accommodation)という概念について、特別行政法人高齢・障害者雇用支援機構の障害者職業総合センター研究部門が、前出の「障害者の権利に関する条約」の策定過程と最終条約文を研究しまとめた調査研究報告書 No.87 としてホームページ(<http://www.nivr.jeed.or.jp/>)に掲載していますので、参考までにそこから要点を抽出すると「合理的配慮」の概念とはおよそ以下のようになるでしょう。

- (1) 「合理的配慮の否定」は差別である。
- (2) 「他者との平等を基礎として」いる。
- (3) 合理的配慮とは、障害者による「すべての人権及び基本的自由」の平等な享有と行使を確保するために行われる「必要かつ適当な変更及び調整」(necessary and appropriate modification and adjustments)である。
- (4) 「合理的配慮」は個人の個別具体的なニーズに取り組むものであり、個々人で異なる「個別化された概念」である。
- (5) (ゆえに)障害者の個別具体的なニーズに事案毎に配慮するために「特定の場合に必要とされるものである」(where needed in a particular case)。
- (6) 「合理的配慮」が個々人で異なる「個別化された概念」であることを意味するがゆえに、集団的名性格を帯びるアファーマティブ・アクション(affirmative action) / ポジティブ・アクション(positive action) (社会的弱者の不利な現状を是正するための改善措置のことで、差別環境の是正措置と捉える国や、対象者に対する直接的な優遇措置と捉える国があるなど様々である。)と「合理的配慮」は概念上区別される。
- (7) 変更及び調整を行う側に対して「不釣り合いな又は過重な負担」(disproportionate or undue burden)を課すものではない。
- (8) 「合理的配慮」はさまざまな部門で通用しなければならないものである。
- (9) 法的伝統の多様性も尊重しなければならいため、「一般性」(general)と「柔軟性」(flexible)の両方を備えている。

さて、話を「共同作業所」に戻したいと思います。

「共同作業所」をつくる運動の原点が、合理的配慮の元での労働の機会と場の創出であったが、「共同作業所」という形態はあくまで手段であり、最終目標は社会の変革にあったのだとすれば、「共同作業所」の活動は形骸化し止まってしまっているということはないでしょうか。そうだとすると、それは何故でしょうか。

近年、障害者自立支援法の事業制度として、就労移行支援、就労継続支援 A 型、就労継続支援 B 型の出現と「共同作業所」等がこれらの事業制度を導入したことで、より特定の人たちの労働の場が福祉的事業所の中に隔離される結果になったということはないでしょうか。それは「共同作業所」の表面上の形式のみがモデル化され、「共同作業所」の活動がより形骸化させられることを助長したのではないかという考えは果たして不適当な認識でしょうか。

ここまでのとりとめもない思考は、あくまでも「共同作業所」を合理的配慮の元で参加できる「労働」の場であると考えられる場合という枠でおこなったのですが、それにしても、本来の目的が社会の変革を求めるものであったと仮定するならば、現在のそれぞれの「共同作業所」の現状をどのように評価することができるでしょうか。

「『労働』だけが人が社会参加をする上での唯一の在り方であると極論してしまうことが、人が社会で存在する上で多くの問題を生じさせる原因になりはしないか」と先ほど書きました。「労働」が「賃金労働」という狭い概念で設定されていると仮定すると、本当にそのように規定することだけが人の幸せにつながるのか疑問があります。もっとも「働きたい」人にとって、それぞれの人の能力や可能性に合わせた労働が可能な機会と場ができることは未達成の課題でもあるでしょうし、今日においても必要なことだと思います。

しかし、実生活の中で人の営みを観察すると、人が社会で存在する上でもっと根源的に重要な視点は、「人」がそこに「在る」、すなわち「生きている」ということではないかと思わずにはいられません。「人」が「在る」ことに理由や目的を求めて苦悩する人がみられますが、それは、その人を取り巻く社会の環境がその

人にそう思わせているように思えてなりません。本来的には「人」が「在る」ことに理由や目的など無いのではないかと考えるからです。

「人」がただ「在る」ということだけでは不足だと考える風潮が広がると、生き辛い思いをする人が社会でたくさん出てくることになるのではないかと危惧します。現に、今の日本の社会はそのような社会だといえないでしょうか。

「人」がただ「在る」ことに疑問を抱くとき、その人には、「自分は存在する意味がない」とか、「自分は誰の役にも立っていない」とか、そういう考えが頭の片隅に浮かんできているのではないのでしょうか。では、なぜそう思わされるのでしょうか。

そのように思わされてしまう原因をつくる社会的環境に求めると、色々な要素を見出すことができます。一つに、人が存在する価値として「労働」が基準になっている社会の風潮、一つに、より多くの税金を納める市民を増やし、税金で生活を支える対象者を少なくしたいという力が働くような政策、一つに、税金で生活を支える必要があるような社会生活上困難を有する者に対しても、必要な支援を受けるために経済的な負担を要求するような制度構成、一つに、生活上の社会的困難性が発生する原因が人という存在と常に不可分であり、かつ全ての人に生じる可能性があるところのあらゆる脳機能を含む身体的な不具合である場合においても、「人」が「在る」為に各個人ごとに必要な支援が量的にも経済的にも制約されてしまうような制度構成、一つに、社会との人的つながりを必要とする人に、社会参加の機会と場が充分確保されないような社会環境とそれを作り出す制度構成など、様々な要素が挙げられるだろうと思います。

どれを見ても、人が人為的に作っている経済や制度が人を苦しめていると見て取ることができます。作為にしても不作為にしても、その結果として人が人を苦しめるような社会が果たしてよい社会といえるのでしょうか。

ですから、「共同作業所」の在り方を考えるとき、私は、せめて「共同作業所」という小さい社会の中では、これらの社会環境を再現することは避けなければいけないのではないかという考えに至ってしまうのです。

日本の社会的発展の途上で、現在の社会環境をして「共同作業所」を「代替労働環境」と位置付けるにしても「代替社会参加環境」と位置付けるにしても、その存在の原因は現在の社会環境にあるというのは、あながち的外れではないといえないでしょうか。

とすると、極論として、本来であれば「共同作業所」は無くても、現在「共同作業所」を必要としている人たちが社会生活上困ることがない社会環境というものは創造しうるということにはならないでしょうか。

あくまで就学期を終えた人に限定すれば、例えば、全ての人がどこかの職場に所属しているような社会です。寝たきりの人も、視力に不具合のある人も、聴覚に不具合のある人も、その他身体的に不具合のある人も、専業主婦も、現在であれば定年退職の対象となる高齢者も、現在では病気により雇用の機会を与えられない人も、脳の機能上不具合のある人も、その他誰でもがそれぞれの人が興味のある職場に所属できるような社会があったらどうでしょう。

これは、あくまで社会人としての所属という意味で、「労働」ということとは全く区別して考えることを前提としています。そうした基礎的な所属関係が生じる社会参加の機会と場があり、その参加する社会の中で人間関係が発生し、職場の労働需給環境を前提として、その人の職務遂行能力で可能な職務に断片的にも従事することができ、従事した職務と時間に対しては、誰もが等しく同様の基準で報酬が支払われ、職務に従事できない時間であってもその職場に居ることができ、職場にはこうした方々に対し合理的配慮を適切に付与し必要な生活支援を行う職員が常駐しているような社会的環境があったらどうでしょう。

こんな事を言うと、現在福祉事業所で勤務している精神保健福祉士等の専門職の方々は自分が職を失うと思うかもしれませんが、恐らくそんなことにはならないと思います。逆に、職場の数だけ専門職が必要になる筈だと考えるからです。

私がこのような考え方をするのは、小学生の頃、私が通っていた京都府舞鶴市の小学校での生活環境が大きく影響しているのだらうと思います。

その小学校には「特別学級」というクラスが学校内にありました。そのクラスは、そうでないクラスの中で授業を受け一緒に学んでゆくことが困難な子達が授業の場として所属するクラスであったと今思い返すことができます。しかし、どの子も必ず「特別学級」でないクラスに所属があり、休み時間にはこちらからあちらに遊びに行ったり、あちらからこちらに遊びに来たりという生活体験をしていました。ですから、そういう生活環境は当たり前だったわけです。

先日、「すぎなみ 1 5 1」のメンバー・ミーティングに本当に久しぶりに参加することができました。その中で皆さんにこんな質問をいたしました。「もし『すぎなみ 1 5 1』が無かったとしたら、皆さんはどうでしょう。」

皆さんからは「え！困る～、困るよ～、『すぎなみ 1 5 1』が無かったらとっても困りますよ～。生活の一部なのだから。」という声があちこちから挙がりました。

次にこのような質問をいたしました。「もし、色々な職場に仕事をしなくても居ることができる居場所があったらどうでしょう。」

この質問は皆さんも流石にそういう状況をすぐには想像することができなかつたようで、返答までに少し間ができました。しばらくして、「いや～、それは職場に居辛いでしょ～。」という声が聞かれました。

そこで、次のような質問をしてみました。「例えば、どこの職場にも『すぎなみ 1 5 1』みたいな場があるとしたらどうでしょう。『すぎなみ 1 5 1』と同じように、ご自身の体調に合わせて、その職場の仕事に関わって、仕事に関わった分だけお給料がもらえるとしたらどうでしょう。そして、その職場に『すぎなみ 1 5 1』のスタッフのような立場の人もいるとしたら。」

多くの人は考え込んでいたようですが、「それならいいかもしれないかな。」という声は少し聞かれました。

そうは言っても、もちろん社会環境が大きく変化しない限りは、現状では「共同作業所」がなくなると困る人がいるということには違いありません。

精神病院が社会的入院者を医療機関外の社会から隔離している状況と、「共同作業所」が利用者を「共同作業」外の社会から隔離している状況とでは、当事者と社会との接点の度合いや実生活の場の相違という観点で全く異質な状況だといえますが、「社会からの隔離」という意味では構造的に類似点があるようにも思えます。

他方、公共機関や会社などの職場群と同列に「共同作業所」という社会参加の機会と場があると捉える考え方もあり得ます。

「すぎなみ 1 5 1」は、どちらかといえばこの視点に立って活動をしてきたのだと認識することができます。

そう考えると、上述の社会環境の整備も必要かもしれないけれど、それだけではなく、「すぎなみ 1 5 1」を必要としている皆さんにとっては、「すぎなみ 1 5 1」も参加者各人の役割を果たすことのできる場であるということができます。

「役割を果たす」とは、大きい意味で「すぎなみ 1 5 1」とつながる中で「人」としての「存在」を相互に確認する関係をもつことができることを意味しています。

「つながる」とは、「すぎなみ 1 5 1」に登録することで、たとえ「すぎなみ 1 5 1」に来ることができない人でも、「人」が「在る」ことを相互に確認する関係にあるという包括的な関係を意味しています。

唯一、明確にしておかなければいけない職場提供者との違いは、「労働」に人の存在理由や価値を置かないことではないかと考えています。そうしないと、多くの「共同作業所」が抱えている「労働」条件での不整合の問題が生じる恐れがあるからです。

「共同作業所」における「労働」条件での不整合の問題は、福祉事業所だからそれは仕方のないことだと説明するのも現実的には許容せざるを得ないのかもしれない。

例えば、「共同作業所」内で行っている「仕事風」なこと（一般に「作業」と呼ばれ、「すぎなみ151」では有償活動と呼んでいるもの）を、最低限労働基準法則した「労働」条件を実現できるような収益活動を可能にするとき、それはそれで「共同作業所」創成期に目指した当初の目的を達成する社会環境ができることとなります。はじめのうちは現在の職員は経営者であり、あるいは管理職となり現在メンバーと呼ばれている人たちを雇用し職を与える立場となります。（現在でも、実態はそうなっているのしょうから、おそらくこの構図に違和感は無いと思います。）経営者は従業員とその家族の生活の為に一生懸命経営をおこないます。現在と違うのは、従業員の中から管理職や経営者になってゆく人も現れる可能性がある点でしょう。「公共機関や企業などの職場提供者がやらないので自分達が実現してみました！」という具合になります。もちろん従業員に必要な生活支援も当然経営者が行なうことが前提です。

しかし、実際の経済原理の中で可能であれば、既にこれは実現していることのような気がします。

あるいは、全く違う考え方もできると思います。例えば「共同作業所」が、現在メンバーと呼ばれている利用者を全員雇用し、現在の職員と同列の従業員にし、合理的配慮の元で各個人の可能性にあわせて職務に従事してもらう場合・・・はて、どうなるでしょう。もちろん、現在「作業」と呼ばれている「仕事風」なことはやらない前提です。なぜなら、「仕事風」なことをやり収益事業としてそこから従業員に給与を支給することを前提とする場合、前段の例と同じことになってしまうからです。ですから、これと性質を異にするために「共同作業所」内での生活をする、「人」として「在る」こと自体が従業員の役割だと位置付けることになるでしょう。財源はあくまでも公的財源です。1事業所20名の従業員だとし、1人当りの年間人件費を500万円だと仮定すると、人件費だけで1事業所1億円の財源と、その他運営諸費用が必要です。たとえそれだけの財源が必要だとしても、少なくとも、「共同作業所」の従業員であることができる人に限っては生活保護世帯である必要はなくなり、生活保護費予算は削減されることとなります。障害年金の受給をしなくても生活が成り立ち、年金支出額は削減されます。協会

健保の健康保険に加入し自己負担分の保険料を納付し、医療にかかるときは自己負担分を負担します。厚生年金にも加入し自己負担分の年金掛金を納付し、定年になれば年金をもらい生活をします。雇用保険にも当然加入し様々な給付を受ける対象になります。当然所得税の納税者にもなります。ということは、「共同作業所」の従業員全員が社会保障システムを支える担い手にもなるという意味でも大きな効果を出すのではないのでしょうか。有給休暇も支給されます。有給休暇も相応に多めに支給することにしましょう。有給休暇でも足りないときは、雇用保険の休業手当か何かで保証されることにしてみましよう。

この前提は、先ほど挙げた「職場の提供者（公共機関、企業等、賃金労働を提供する主体）が日本の経済原理の中で個別の配慮無く職務従事者に要求する生産効率の水準、職場の提供者が経営上の採算の中で人件費として支出できる費用の限界、そして職場の提供者（特に私企業について）が雇用する従業員とその家族の幸福を企業活動の第一目的とせず、企業役員やその所有者（株主）の利益が最優先される経営理念等」といった社会環境を社会の構成員が変えない場合であり、かつ「共同作業所」も他の職場提供者と同列の位置付けをする場合です。

何の役に立っているか分からない官庁や地方公共団体の天下り先に巨額の税金が使われるのであれば、この例示のような事業にこそ税金を振り向けるべきだ、などと言い切ってしまうのは多少乱暴かもしれませんが、でも、正直そんな気持ちにさせられてしまう今日の日本です。

何だか話が飛躍しすぎて宇宙の彼方まで行ってしまいました。

こんなことばかり考えるので、しばしば私は「頭がおかしい」とか「狂ってる」とか「非現実的」と一蹴され、誰からも相手にしてもらえないのですが・・・。

現在、障害者雇用の「法定雇用率」だとか、その基準を満たすための「特例子会社」だとかがもてはやされているようですが、私はとても良くない制度だと考えています。これはお上からの強制的な「義務付け」で、実施する側からすれば本心で誰をも雇用することが職場提供者の社会的役割だという意識を育む環境を阻害するからです。

障害者雇用の枠でハローワークに登録すると、集団面接会に参加することができます。集団面接会が実施されるとき、その集団面接会限定の求人情報をまとめた冊子をもらうことができます。この求人情報は集団面接会が終わるまでは一般に公表されません。この求人情報の冊子を御覧になられた方もいらっしゃると思いますが、御覧になられた方はどのような印象をもたれたのでしょうか。私は、「なんだ、一般求人の内容と変わらないじゃないか。」という印象をもちました。違うのは条件として「障害者」であることです。何だかおかしい感じがします。その求人情報で要求されている要件は、おおかた障害者雇用でない（一般雇用）の求人票で求められている要件とさほど変わりがないからです。これはすなわち、一定の職務遂行能力がなければ採用されることが困難であることを意味しています。そうであれば、その職務遂行能力だけで合理的配慮の元に雇用すればよいということになりはしないのでしょうか。

「共同作業所」の「仕事風」なことに焦点を当てすぎましたが、「仕事風」なことが制度に利用されてしまっている現状をととても憂慮しています。

どこの「共同作業所」でも共通しておこなわれていることにもっと目を向けてみましょう。

私の狭い視野での観察になりますが、それは恐らく「共同作業所」に集まる人たちに生活上の困難性が生じたら、目の前の「困っている」状態に対して、普段共に日常生活を送っていることにより一定の関係性や信頼関係のある職員、あるいはそうしたメンバー同士が、必要に応じて手を差し伸べていることなのではないかと思います。もし、この点が「共同作業所」の共通点の一つだとすれば、そうした社会環境を下支えするような制度について、もっと真剣に検討して下さってもよいのだけだなどと思います。

さて、こうしてあれこれ考えてみますと、いくつかの視点が見えてきます。

- ・「共同作業所」が日本で存在する社会的環境とは？
- ・「働きたい」を実現する目的で創られた「共同作業所」が目指すものは？

- ・「人」が「在る」ことを肯定する社会としての「共同作業所」が目指すものは？
- ・雇用市場から人が排除される仕組みとは？
- ・学齢期を除く全ての人が職場に所属があるような社会は可能か？
- ・「共同作業所」は人を社会から隔離することに加担しているか？
- ・社会が「共同作業所」を他の職場群と同列の社会参加の機会と場だと認知するようになるには？
- ・「共同作業所」における「福祉的労働」は肯定されるか？
- ・「人」が「在る」ことが辛くなる社会の構造とは？
- ・「人」が「在る」ことを肯定する社会になるためには？
- ・職場における合理的配慮を目指すには？
- ・「共同作業所」において「仕事風」なことを取り入れることとは？
- ・「共同作業所」の企業化は可能か？
- ・「共同作業所」に集まる人を「共同作業所」が雇用する仕組みは可能か？
- ・障害者雇用という雇用形態は社会的に健全か？
- ・困った人がいれば、そうでない人が助けるという社会はどうすればできるのか？
- ・「共同作業所」の共通点とは？

今回のテーマについて、まだまだ考察しなければいけないことは沢山あるように思えます。

皆様からのご意見や情報などお寄せいただければ幸いです。

さて、とても長いコラムになってしまいましたが、今回はここまで。

今号もお付き合い下さりありがとうございました。

執筆者：丹菊 敏貴

(これまで、このコラム「すぎなみ 1 5 1」スタイルの執筆者を明記しておりませんでした。この号から明記することになりました。これまでの執筆者も丹菊敏貴が担当しておりました。)

## 15. 【3月の予定】

空白の欄は、平常通りの活動が予定されています。

活動予定・日程は変更されることがありますので、ご了承ください。

### 2011年3月

| 日       | 月                                                                                                      | 火  | 水                                               | 木                                                      | 金                                                    | 土       |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|---------|
|         |                                                                                                        | 1  | 2                                               | 3                                                      | 4                                                    | 5<br>休  |
| 6<br>休  | 7                                                                                                      | 8  | 9<br>ソフト・バレー<br>ボール練習<br>@中部センター<br>14:00~16:00 | 10<br>レクリエーション<br>@東京ドーム<br>ラクーア<br>(温泉)               | 11                                                   | 12<br>休 |
| 13<br>休 | 14                                                                                                     | 15 | 16                                              | 17                                                     | 18<br>杉並精神保健福祉<br>交流会<br>@すぎなみ151<br>18:00~<br>20:00 | 19<br>休 |
| 20<br>休 | 21<br>休<br>春分の日<br> | 22 | 23                                              | 24<br>ヒューマン・<br>クリエーション<br>@すぎなみ151<br>14:00~<br>15:30 | 25                                                   | 26<br>休 |
| 27<br>休 | 28                                                                                                     | 29 | 30                                              | 31                                                     |                                                      |         |
|         |                                                                                                        |    |                                                 |                                                        |                                                      |         |

～編集者のつぶやき～

緊急連絡用の携帯電話の音が聞こえたので、携帯電話を開けてみた。着信の表示は無かった。

こんなことが何度かあった。

相談したら「それは『幻聴』だね」と言われた。

あ～、これが幻聴か・・・納得！

創刊：2008年4月

編集・発行者：すぎなみ151

〒168-0064

東京都杉並区永福4-19-4 安藤ビル2-C

Tel.: 03-3327-9225 FAX: 03-6666-8560

E-mail: okomaris@creosore.or.jp